



火災・救急・救助 119

消防瓦版纏

No.455

富良野広域連合富良野消防署占冠支署
56 - 2119

消火器体験と花火の安全な取り扱い

学童クラブ(中央・トマム)では、子どもたちが火災予防や安全について学ぶため、消火器の使い方体験と花火の正しい取り扱いについての活動を行いました。

消火器体験では、訓練用消火器に触れながら、火事を見つけたときの対応や消火器の使い方を学びました。「火事だ!」と周囲に知らせることの大切さや、安全を確保して行動することについても確認しました。

花火の活動では、楽しく遊ぶために守るべき約束や注意点について学びました。水の入ったバケツを用意すること、周囲の安全を確認すること、火がついた花火の扱い方など、事故を防ぐための大切なポイントを確認しました。

子どもたちは真剣な表情で消防職員の話聞き、「火の扱いには十分な注意が必要だと思いました」と力強い感想を話していました。



救急出場状況 (7月分)

急病	8件(7人)
交通事故	8件(3人)
一般負傷	3件(3人)
医師搬送	1件

7月計 20件(13人)
累計 167件(150人)
※()内は傷病者搬送人員



野生動物対策の状況

農林課林業振興室
野生鳥獣専門員
56 - 2174



エゾシカ

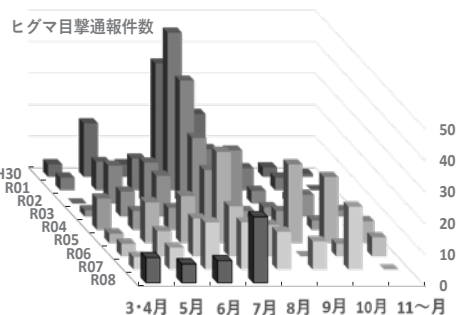
7月の駆除捕獲頭数は40頭でした。過去年同月と比較しやや低く推移しました。



ヒグマ

8月に入り、村内のヒグマ活動情報は少なく、静かな状況が続いていますが、下トマムの石勝線沿いでは7月中旬から8月13日現在まで目撃や列車との衝突が断続的に発生しており、注視しています。

例年7月は目撃情報件数が最も多くなる時期で、今年も件数は増加しましたが、村内のヒグマの動きとしてはここ数年同様静かに過ぎました。



その他

占冠村では11年前に鳥獣被害対策を目的にドローンを導入し、目視での被害状況確認が難しいデントコーン圃場の空撮などによる調査に活用してきました。また、台風災害状況の確認など別分野の業務でも活躍してきました。

ここ数年のドローンの進歩は目覚ましく、より長時間の飛行や熱赤外線撮影など、新たな機能、性能の製品が世に出た一方、村のドローンは経年劣化も進んでおり、業務の継続と発展のために、そろそろ新たな機体を取得できるよう調整に着手しています。

また、複雑になる法規制や高性能化する機体の運用を鑑み、技能や知識を有する操縦員の確保のため、村の野生鳥獣調査員が資格取得に向けた研修を受けています。



ドローン空撮(ヒグマ食害跡)



地域とともに

コミュニティ・スクール情報

～占冠中学校～

教育委員会学校教育担当 56 - 2182

〇占冠メープル工房訪問 ～占冠村の特産物を知る～

6月に、1年生が学年行事である遠足で「占冠メープル工房」を訪問しました。合同会社COYAの田中様より、メープルシロップや樹液飲料水の生産工程について実際の機材を操作しながら詳しく説明していただきました。メープルシロップの希少性や飲料水開発の独創性、占冠村の豊かな森林資源を活かした取組を身近に感じ、学ぶことができました。生徒は「メープルシロップの作り方や出てくる水を使って飲み物を作るのはすごいと思った」などの感想を述べていました。



〇探究的な学習 ～ふるさを見つめる～

総合的な学習の時間では「SDGsの視点から考える占冠村」をテーマとした探究活動を行っています。この活動は、子どもの興味や関心に基づく学びを充実させることが狙いの一つとなっています。今年度からは小学校での総合学習(ふるさと教育)を踏まえ、学年別に探究の大枠を設定し、3年間を通して段階的に学べる体制を整えました。

1年生	「占冠村の魅力と抱える課題とは何か」
2年生	「課題解決のために私たちができること」
3年生	「私たちの理想をかたちに」

上記の大枠を踏まえ、各自が課題を設定し、解決に向けて調査やまとめ活動に取り組んでいます。調査では、地域の方々へのアンケートへのご協力や専門家の方々から貴重なご助言を頂きました。まとめ活動も終盤を迎え、小中合同文化発表会に向けての発表準備を進めています。



こちら駐在所です

占冠駐在所
56 - 2110

秋のヒグマによる人身被害の防止 ～ヒグマとの事故を防ぐために～

〇複数で行動し、音で存在を知らせましょう

野山には1人で入らず、複数で行動するようにしましょう。

入山するときは、熊鈴やラジオ等を持って、会話しながら、人の存在を知らせましょう。

〇ヒグマの出没情報等に気を付けましょう

薄暗いときの行動は避け、野山に入る前には新聞やテレビなどでヒグマの出没情報等を確認しましょう。

〇ゴミは放置せず、持ち帰りましょう

ヒグマは、いったんゴミの味を覚えると、それを目当てにゴミ捨て場などに繰り返し出没するようになります。

ゴミを野外に放置したり、埋めたりしないようにしましょう。

〇フンや足跡、食べた跡を見つけたら、すぐに引き返しましょう

ヒグマのフンや足跡、草や木などが食いちぎられた跡などを見つけたときは、すぐに引き返しましょう。

〇落ち着いて行動しましょう

万が一ヒグマに遭遇した場合は、落ち着いて行動しましょう。逃げたり、騒いだり、慌てて行動すると、かえってヒグマを興奮させ襲われる危険があります。リュックや持ち物の回収はせず、ゆっくりと静かに立ち去りましょう。

〇熊撃退スプレーや熊鈴を携帯しましょう

野山に入る際は、万が一ヒグマに遭遇した場合に備え、熊撃退スプレーや熊鈴を携帯しましょう。

